

ID 1008394

未来のK-1世界王者へ  
兄弟で磨く努力と絆



1 左から、蓮風さん、真風さん 2 蓮風さん 3 真風さん



蓮風さん(新田小学校 5年)  
真風さん(新田小学校 4年)

プロフィール

兄弟で練習に励み、「Stand up」や「K-1アマチュア」といった全国レベルの大会に出場して、優秀な成績を収めている。

結果について、蓮風さんは「練習の成果を出すことができたので、頑張った良かったと思った。兄弟で優勝することができてうれしい」と笑顔で振り返ります。

蓮風さんが小学2年生、真風さんが小学1年生の頃に、2人でK-1を始めました。始めたばかりの頃は、格闘技の痛さと何もできない悔しさで、泣きながらジムに通っていた2人ですが「関澤家は、強さを求め続ける。ベルトを取る」というゴールを決めるのではなく、

今年2月に開催された「第77回K-1アマチュア」で、関澤蓮風さんと真風さんの兄弟が2人そろって優勝を果たしました。

K-1とは、1993年に日本で始まった、パンチやキック、膝蹴りなどの打撃技で戦う格闘技です。

本大会は、プロの頂点を目指す選手育成だけでなく、K-1の競技人口の拡大を目的として、小学生の「キッズ」から40歳以上の「マスターズ」といった年代別に分けられています。兄の蓮風さんは、「キッズ」Bクラスの5・6年生軽量級、弟の真風さんは、「キッズ」Bクラスの3・4年生軽量級に出場しました。

兄がまだ優勝したことのない「K-1」で、新設された階級の初代王者としてベルトを獲得した時は、とてもうれしかった」と語ります。

今後の目標について、2人は「ジムの会長や両親とともに、世界の強敵を倒し、兄弟でK-1の世界王者になりたい」と目を輝かせます。

小さな2つの拳に込めた夢が、K-1の大きな舞台へと繋がっていきます。

強くなるという終わりのないものを目指す」という父の教えを胸に、これまでの厳しい練習に励んできました。

週3回のジム通いの他、13キロのランニング、シャドーやキックといった基本を中心とした自主練習を毎日欠かしません。蓮風さんは「お互いにアドバイスをし合うことで、それぞれの得意な部分を磨くことができる。弟は、スピードが速く実践練習で負けることがある。良いライバル」と兄弟ならではの切磋琢磨について明かします。

一方で、真風さんは、兄の存在を「強くて尊敬する人。でも、負けたくない気持ちもあるので、兄がまだ優勝したことのない